

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 インターナショナル・コミュニティ・ネットワーク(ICN)

1. 事業の趣旨・目的

市の支援体制の枠に入らない子どもたち、また、支援体制が十分でない教科学習のための日本語の学習支援を行う。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月5日	所沢市役所	持丸邦子 湯沢智子 辻 恵子 唐寄勝子 大野恭弘 小田良子 横溝賀代子 飯泉潤子 小川珠子 池嶋恵里奈 佐藤良博 栗原淑子 (オブザーバー)	1. 子どもの現状 2. 広報活動 3. 今後の予定・課題	添付文書「運営委員会会議事録」参照
11月18日	所沢市役所	持丸邦子 辻 恵子 小田良子 横溝賀代子 飯泉潤子 小川珠子 池嶋恵里奈 栗原淑子 (オブザーバー)	1. 事業経過報告 2. 今後の予定・課題・その他	添付文書「運営委員会会議事録」参照

3月23日	新所沢コミュニティセンター別館	持丸邦子 湯沢智子 辻 恵子 唐寄勝子 大野恭弘 小田良子 飯泉潤子 池嶋恵里奈 オブザーバー; 鈴木雅明 栗原淑子 西連寺悦子	1. 事業経過報告 2. 今後の予定・課題・その他	添付文書「運営委員会議事録」参照
-------	-----------------	---	------------------------------	------------------

【写真】

※第1回・第2回の運営委員会は「ボランティアを対象とした実践的研修」の運営委員会を兼ねて開催した。



3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 子どものための日本語教室
- (2) 開催場所 新所沢公民館・新所沢コミュニティセンター別館・狭山ヶ丘コミュニティセンター・美原小学校放課後空き教室・ファーストフードショップ
- (3) 学習目標 子どもたちが楽しく学校に通え、教科学習に取り組むための日本語学習を支援する。
- (4) 使用した教材・リソース 学校の教科書／ひらがな・カタカナ・漢字ドリル／『こどものほんご1・2』／『みんなの日本語』初級Ⅰ・Ⅱ 各国語版／映像教材／指差し会話帳(各国語)／JSL中学高校生のための教科につなげる学習語彙・漢字ドリル／高校受験過去問題集
- (5) 受講者の募集方法

募集チラシ(公民館・学校教育課・社会教育課・外国人登録窓口・高校進学ガイダンス・教会)／ロコミ

(6) 受講者の総数 21 人

(出身・国籍別内訳 中国 8人, フィリピン 2人, 米国 3人, ブラジル 1人, ペルー 3人, ウズベキスタン 1人, ネパール 1人 韓国 1人 日本 1人。

(7) 開催時間数(回数) 338. 5時間 (全230回)

(8) 日本語教室の具体的内容

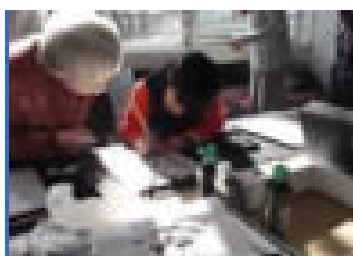
回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語 (人)	教授者・補助者 人数	内容
①	10/20・26・27 11/2・9・10・16・17・24・30 12/1・7・8・14・15・21・22・27・28 1/11・12・18・19・25・31 2/1・2・8・9・15・16・22・23・28・29 17:30から1時間～2時間	45.5 時間	4人	中国・中国語 (3人) 日本・英語 (1人)	教授者 3人	日本語基礎・漢字学習・数学復習・高校入試対策・進路相談
②	4/6・13・20・27・28 5/11・12・18・19・25・26 9/1・7・8・14・15・21・22・28・29 10/5・12・13・19・20・26・27 11/9・10・16・30 12/1・7・8・14・15・21・22・27 1/11・12・18・19・25・26・ 2/1・2・8・9・15・16・22・23・29 3/1・7・8・14・15・22・23・28・29	64 時間	1人	日本・英語 (1人)	教授者 1人	漢字学習・数学復習・高校入試対策・進路相談
③	5/17・24・31・6/7・14・21・28 9/6・13・20・27・10/4・11・18・25 11/8・15・22・29・12/13・20 1/10・17・24・31・2/7・14・21・28 3/6・13	62 時間	1人	日本・日本 (家庭内言語；台	教授者 1人	数学・英語を中心に中学1年生での学習の遅れを取り戻す。母親との関係修復も。

				湾)		
④	4/6・13・20・27・28・5/11・12・18・ 19・25・26	11 時間	1人	日本・ 英語	教授者 1人	学習者の持参教材による学習
⑤	2/14	2 時間	1人	ペル ー・ス ペイン 語	教授者 1人	簡単な数学
⑥	9/2・9・16・10/21・11/4・11・18・25 12/2・9・16・26・28・1/13 2/3・10・17・24・3/3・9・16	28.5 時間	1人	不明・ 日本 (家庭 内言 語；タ ガログ 語・中 国語)	教授者 1人	テスト直し・学校の 宿題・1年生の算 数・言葉づかいの 訂正・日本の習慣 を教える(親の代 わり
⑦	夏休み 7/19・20・21・22・25・26・27・28 8/23・24・25・26 27	19.5 時間	8人	フィリピン・タガログ語2人、ブラジル・ポルトガル語1人、ペルー・スペイン語2人、ネパール語1人、台湾・日本語1人、ウズベキスタン・ロシア語1人	教授者 11人	漢字ドリル・入試 の過去問題集・教科書
⑧	冬休み 12/26・27・28・1/5・6	10 時間	11人	フィリピン・タガログ語2	教授者 10人	漢字ドリル・入試 の過去問題集・教科書

				人、ブラジル・ポルトガル語 1 人、ペルー・スペイン語 2 人、ネパール語 1 人、台湾・日本語 1 人、中国語 2 人、米国・英語 3 人		
⑨	春休み 3/27・28・29・30	6 時間	7 人	フィリピン・タガログ語 2 人、ブラジル・ポルトガル語 1 人、台湾・日本語 1 人、中国語 2 人、ウズベキスタン・ロシア語 1 人	教授者 10 人	基礎日本語・漢字ドリル・教科書
⑩	日本語ラヂョ（4 5 週） 夏休み・公民館文化祭・年末年始を除く 毎週土曜日	90 時間	17 人	上記より米国 3 人、中国 1 人を除く	教授者 14 人	基礎日本語・漢字ドリル・教科書

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

- 本人は日本生まれであっても、両親の母語が異なるために、本人の言語が混乱していた小学校低学年の子どもに対して、学校からの依頼で、学校以外にも、とにかく正しい日本語に触れる時間を増やす支援を行った。内容的には読み聞かせが多くなった。母親には夏休みの教室に来てもらい、母親と日本語でのコミュニケーションができるように、母親への日本語指導も行った。
- 中学の同級生同士で、時にはライバル意識を持ち、時にはお互いの存在に助けられ、中学3年の勉強を続けた。一人は定時制へ、一人はもう1年日本語の勉強をしてから進学する道を選んだ。実際の学習内容はそれぞれ異なり、一人は日本語学習中心、一人は学校の宿題や、入試の過去問題の一部をした。二人で同じことができたのは、面接の練習だった。
- 長期休暇中の教室は異年齢の子どもたちが顔を合わせる機会となり、学習中はそれぞれの学習をするが、終わったあとは一緒に遊べる良い機会となった。



冬休み教室(書き初め)



夏休み教室

カルタやすごろくなど日本の正月

行事を体験しながら、自国の習慣

にはない習字を体験し、学校での授業に備える。

4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

今年は中学3年生の受講が多かった。4名。不登校を続けていたお子さんも高校進学先が決まり、卒業式には出席できた、ということでのこれまでの支援の成果はあったと思う。

(2) 学習者の習得状況

一人一人、学校の授業についていけるようになっている子、高校に合格した子、小学校時代の勉強の遅れを取り戻しつつある子など、さまざまです。数学のある程度、得意な子は数学に比重を置いて、計算問題は学年相当の力がついてきた。共通でむずかしいのは、漢字だった。小学校低学年の子はほぼ追いついたが、中学生は、これまでの遅れが相当たまっていて、小学校2年生くらいのレベルでストップし、その間に授業は進む。日常会話は普通にしているが、学習についていけない状態は週1～2回程度の支援では、大きくは改善しない。

(3) 日本語教室設置運営の効果, 成果

今年は中学、高校、大学への進学、と節目を迎えた子が多く、日本語教室と子どもたちとの結びつきの効果・成果の良く見えた年だったと思う。進学にあたっては、親への支援、子どもと親との関係の結びなおし、あるいは、進学の説明会への同伴、と日本語学習以外の活動の重要性がますます実感できた年だった。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

子どもたちが通う学校のPTA関係者との情報交換によって、学校の様子がわかり、子どもたちへのより良い支援につながられた。

(5) 改善点, 今後の課題について

- ① 現状 支援が不十分なためにすでに学齢期を過ぎてしまったにも関わらず、学校に行かなくなってしまった子どもたちがいる、ということが、子どもたちの支援を続けてくるとわかってくるが、その実態が把握されていなくて、支援ができない。
- ② 今後の課題 そうした数字を国レベルで把握してもらうこと。
- ③ 今後の活動予定, 展望 日本語支援の活動を強化するために、新たな人材を取り込めるよう、新たな組織を創る。

(6) その他参考資料

夏休み・冬休み・春休みの集中教室の案内チラシ